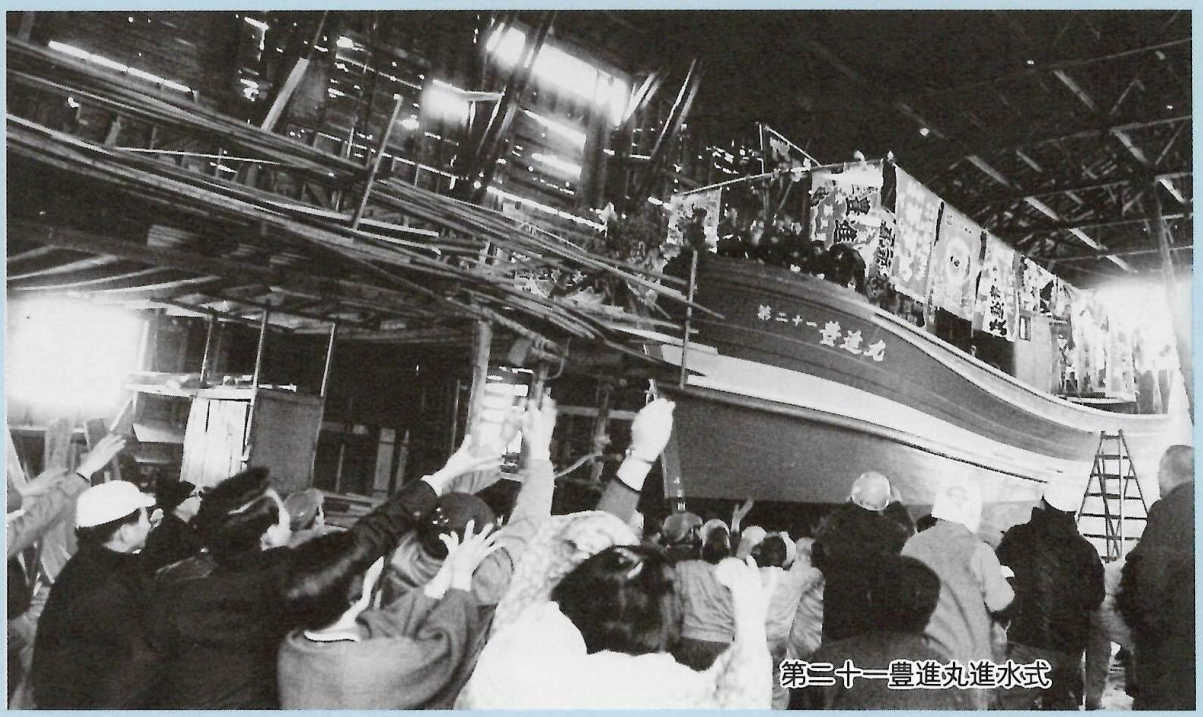
酒田港開港五百年記念

〔第73回企画展示〕

大漁旗と船大工道具展

2階
酒田の歴史と民俗資料展



第二十一豊進丸進水式

開館期間　平成4年12月3日(木)～平成5年1月31日(日)
開館時間　午前9時～午後4時30分
休 館 日　11月～3月　月曜日（月曜日が休日のときは翌日）
　　年末年始休業（12月29日～1月3日）
入 館 料　おとな100円・児童生徒50円
　　65歳以上の方と身体障害者の方は無料です

酒田市立資料館
酒田市一番町8-16　TEL(0234)24-6544

酒田で昔海船を造ったのだろうか。

【プロローグ】

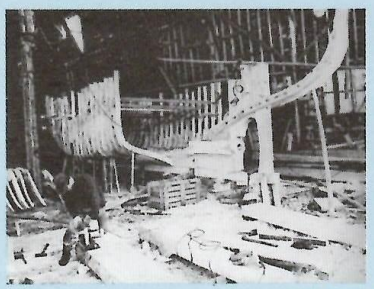
文治５年秀衡の遺臣三十六騎は平泉没落の際、秀衡の「泉の方」徳尼公を守って飯盛山近くの袖浦の地に逃れた。徳尼は飯盛山南西泉流寺林の泉流奄に住み、商才があって、三十六騎に海船を持たせ商売をさせたという。向う酒田時代の話である。伝説であるが、海船の建造地は、飯盛山近くの高野浜近くであろうと思われてならないのです。

戦国時代豊臣秀吉は、羽柴出羽侍従最上義光に過所を与え、義光は酒田の豪商に命じている。現在過所は「二木文書」として４通残っており、それは船10艘を酒田湊より回送することを命じたものだった。当時酒田の豪商で最上義光の御用商人であった粕谷、伊勢崎、二木は海船を所有しており、天正18年粕谷は秀吉から酒田湊の海上船舶の警備を任命されている。これら豪商の海船は何処で建造されたか記録になく、まったくわかっていないのです。

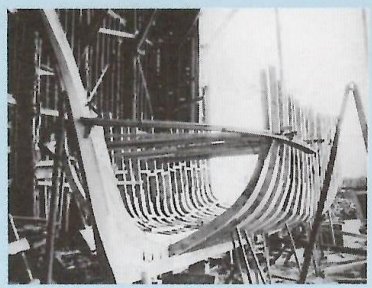
明治期までの日本の海上交通は「北前船」という言葉にイメージがあった。出羽の米輸送で、日本海側の諸湊がにぎわったが、特に栄えていたのは出羽の酒田湊であった。海産物はここで荷をおろし、越前、敦賀、大阪に船積みされたのでした。古誌に日和山の下は新町と称し新町の接点を高野浜といって、古く金華崎といった。高野浜より湊口までの間を俗に大浜と呼び慣わし、その間に造船所があって、大小の船舶を新造、修繕する船蔵が連らなっていた。(『出羽國風土記』)最上川の下流を古来坂田川と呼ばれた。坂田川の海に注ぐ所が港湾になっていて、湊の広さは東西13町南北８町深さ１切(じん)１尺あった。

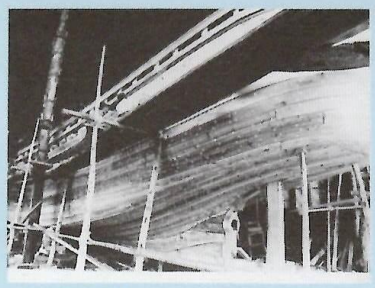
酒田湊は北西に向き、千石船入津の時は小舟を出して本船に綱を付け引っぱって入れたという。これを水戸教といった。米の都酒田の地には、最上川流域の諸藩が米蔵を設け、多くの米が流通したのでした。酒田の豪商の１人、鐙屋の繁栄ぶりを西鶴は「世に船程重宝なる物なし」と「日本永代蔵」で綴っているのです。

元禄９年の亀ケ崎城下大絵図には〝瑞賢倉〟、御公儀御米置場の西に浜大渡村があって、稲荷を中心にかなり大きな蔵が11棟あるのです。さらに西に40間四方の御米置場があって南に御船改役人の詰所が見え、御城米置場の周りに東西40間南北20間の御船蔵が２棟、他に船蔵が６棟正確に記されているのです。どうも高野浜にあった浜大渡村を中心にある蔵棟は、千石船を建造した大造船基地ではないかと思われるのです。享保18年(1733)に近江八幡商人が松前向の慶栄丸(千石船)を酒田湊で新造、享和元年(1801)大浜で御城米船を建造の記録が残っているのです。また天保14年(1843)の船板図が残っている。まぼろしの紅花船と言われている酒田北国船万福丸や、高田屋嘉兵衛の手船辰悦丸も出羽の荘内で造ったとあるので、これら大船は酒田の大浜で建造されたと思われるのです。これら江戸期の造船技術は酒田の船大工に受けつがれ、昭和18年戦時体制により山形造船株式会社が創立され、250トン型木造１番船が進水した。開催にあたっては、中山岩男、斎藤清夫氏の方々に造船資料を紹介していただき、船大工の皆様から貴重な資料を提供していただきました。厚くお礼を申し上げます。



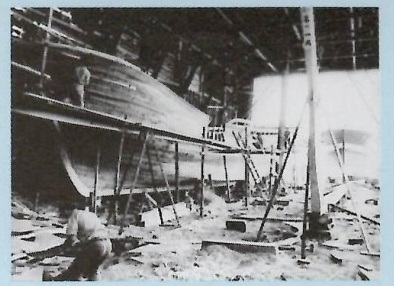
竜骨の基礎造り





外板造り

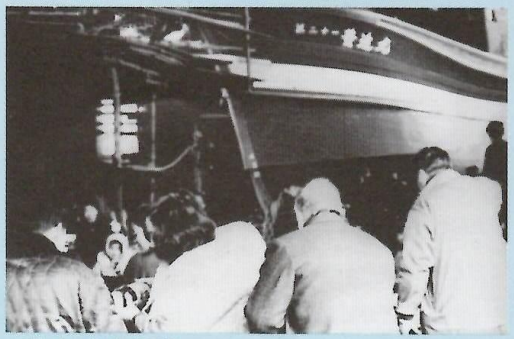
ポンコツで桧皮を埋める



外板の仕上げ

第二十一 豊進丸
建造から進水まで

大漁旗で進水式



進水式の状況

進水式完了　第二十一豊進丸36.98トン（株式会社山形造船所で建造）昭和46年2月進水・矢野博見氏撮影

【解 説】大 漁 旗

漁民が大漁の際に行う祭や儀礼を大漁祝と呼んでいる。また地方によってはマンイワイ、マイワイなどといっているところもあり、漁民が感謝と祈願の気持ちを込めて行う祭りをいったものである。方法は各地で異なるが、その年の漁期の最後の決算の際に行う場合や大漁のつどに行う場合などがあり、漁船や船団の帰港のつど行う場合などがある。漁港によってさまざまな行事があり、この際船に大漁旗を掲げ、船主の家で祝宴する習わしであった。

酒田では川崎船の頃は、幟旗で大漁旗はなかったという。幟旗は遙か沖からでも一目に見えるよう、船中無事の標であった。昭和７年頃動力船が使用される様になり、昭和10年頃より大漁旗が使用される様になったという。現在酒田地方では、船を新造した時に、親戚や造った造船会社、商取引のある会社、知人などから船主に贈る習慣がある。

酒田港や飛島では、元旦に１年の大漁を祈願するために、大漁旗を掲げお祭りしている。５月20日酒田祭りの時に四ケ浦漁港に停泊している漁船に一斉に大漁旗を掲げお祝している。また酒田港では北洋漁業出港の際大漁旗を掲げ勇壮な軍艦マーチを鳴らして出港する風景が見られ、飛島では、正月乗初め（２日）出初め（初出漁）大漁旗を揚げる。大漁旗の図案は、鶴亀、宝船、旭日、鯛等の縁起の良い図柄を配したものが多い。大漁旗は現在酒田市南新町㋒旗幕斎藤好司氏が伝統工芸を受けつぎ、大漁への願いをこめて染めている。

珠喜丸　染師 斎藤好司氏

酒田まつりを祝う大漁旗　5月20日